

こくう    しょうまん    ぼうしゅ  
穀雨・小満・芒種

校長 菊池 幸博



4月の穀雨の時期を過ぎ、5月の小満を経て芒種の季節となつてまいりました。これら二十四節季で使われる、季節の区切りを示す言葉にはそれぞれの意味があります。これもまた日本語の美しさだと感じます。

4月の穀雨は、寒い冬が明け、土の中から芽をだし、これからしっかりと伸びていこうとする若葉に比較的柔らかな雨が降り、穀物が潤う時期を示しています。

5月の小満は「麦の穂が実り少し落ちてきた」「陽気がよくなり万物が次第に成長し満ちる」という意味をもち、新緑の季節の生命力を感じさせる時期に使われます。

6月の芒種は、芒(のぎ：穂先などにある刺や針のような部分)をもつ穀物の種蒔きをし、秋の収穫に向けての本格的な第一歩が始まる時期をさします。

今でこそ、現代社会の私たちの生活に、密着はしていないこれらの言葉ではありますが、日本の伝統的な産業の米づくりとは、切っても切り離せない季節の言葉です。そしてこれらの言葉には人々の願いや思いを感じることができます。季節の変化と密接な関係をもちながら生活を重ねていたことがうかがえます。

子どもたちの成長にもこうした思いや願いの部分は、共通するものがあると感じています。入学・進級して、新しい環境、新しい出会いの中で、それぞれの目標を探し、その目標に向かってどう進んでいくかを考え、少しずつ周囲との関係をつくりながら様々な事柄を吸収して自分の力を貯え、そして貯えたその力を使って、小さな目標や大きな目標に向かっていきます。

4月・5月を使って、それぞれの学年や学級で、担任と子どもたちは目標をつくってきました。6月からはこの目標に向けて、「自分たち(自分)」にできることは何かを考え、実践していきます。そうして身につけていく様々な力は、秋の日に黄金に輝く麦のように、あるいは風にしなやかに泳ぐ稲穂のように、自他との関わりの中で大きく膨らんでいきます。

**子どもたちの安全のために、ご家庭でもご指導ください**

- 道路は広がって歩くと危険です。自転車でも同じことが言えます。
- 道路は遊び場ではありません。危険が潜んでいたり、地域の方の迷惑になったりすることがあります。
- 道路を渡るときには、横断歩道を渡ります左右の確認を忘れずに。